

「保育表現技術 器楽Ⅱ」
実習での音楽活動から考えるピアノ演奏技術のあり方
～聞き取り調査を踏まえて～

深 谷 悠里絵

(令和4年3月)

郡山女子大学紀要 第58集別冊

(Vol.58) PP.133～145

郡山女子大学 郡山市開成3丁目25番2号

「保育表現技術 器楽Ⅱ」 実習での音楽活動から考えるピアノ演奏技術のあり方 ～聞き取り調査を踏まえて～

"Childcare expression technology instrumental music II" Piano performance technology from
the viewpoint of music activities in practice
-Based on the interview survey-

深 谷 悠里絵[※]
Yurie Fukaya

We will clarify the music and piano performance techniques handled in the "Childcare Expression Technology Instrumental Music II" class, what kind of music activities were being carried out at the kindergarten site, and what kind of issues the students felt.

In the 2nd year of Reiwa Koriyama Women's University Bulletin, a research note of "Piano playing technique from the viewpoint of music activity in" Kindergarten expression technique "instrumental music II" is posted, and as a preliminary preparation that I felt necessary from the survey there.

Based on the issues related to music practice, sheet music arrangement, and expression, we developed lessons so that we could make use of them in kindergarten training.

はじめに

本研究は、「保育表現技術 器楽Ⅱ」の授業で取り扱った楽曲やピアノの演奏技術について、幼稚園の現場ではどのように活かされ、どんな音楽活動が行われていたか、学生が感じた課題はどのようなものだったか分析・検証していく。

筆者は、所属する幼児教育学科1年「保育表現技術 器楽Ⅰ」と2年「保育表現技術 器楽Ⅱ」の授業を担当しているが、今回は、本実習の音楽活動について考察を行っていくため、「器楽Ⅱ」の授業を取り扱うこととする。「器楽Ⅰ」は「幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノテキスト—レッスン24とその応用—」¹の教材を使用し、年間Lesson12まで終了すること、また「器楽Ⅱ」は季節の歌や行事のときに使用する歌、子どもたちと一緒に歌える曲を年間最低でも15曲取り組むことを、単位取得の条件の1つとしている。

また、令和2年 郡山女子大学紀要 第56集において『「保育表現技術 器楽Ⅱ」実習での

※幼児教育学科

音楽活動から考えるピアノ演奏技術のあり方』の研究ノートに掲載している。その調査から、事前準備として必要と感じた楽曲練習、楽譜（伴奏）のアレンジ、表現についての課題を踏まえて、今年度の「器楽Ⅱ」の授業では幼稚園実習で活かせるようなレッスンを展開していった。

研究の背景

筆者は、授業で取り扱うピアノ演奏技術と実際に幼稚園の現場で必要とされるピアノ演奏の技術に違いはあるのか、どんな工夫ができるか、課題として取り上げている。幼稚園教育要領「表現」²の領域では、内容（6）「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」とある。子どもたちと一緒に楽しめる音楽活動で必要なこと、また実習の事前準備として、音楽活動に対する学生の不安や緊張を和らげるためにはどんな取り組みが必要か模索している。しかし、授業の限られた時間の中で、実習に行く前までに必要となる曲を準備しなければならず、課題をこなしていくには、時間的な面で非常に厳しいのが現状として挙げられる。中村（2017）も、学生の意識として保育においてピアノは必要であると感じているようだが、実習に向けての練習や取り組みについて苦労したことを報告している。³

そのような現状はあるが、学生が音楽活動において苦労している点はどこにあるのか把握しておくことで、子どもたちとより良い音楽活動ができるようになり、学生は自信をもって子どもたちの前に立ち、実習に取り組めるのではないかと考えた。令和2年に研究ノートに掲載した際は、授業を担当してまだ1年目で実習や音楽活動について情報量が少なく、学内の先生方や幼稚園の先生に教えていただきながらレッスンを進めていた状況だった。その後、実習を終えた学生に、実習から学んだことの聞き取り調査をし、「課題として提示された、事前に準備しておく楽曲」や「学生が感じた反省点」から、レッスンで学生に伝える必要があることが見えてきた。現場の状況や環境、子どもたちの様子なども踏まえると、全ての園に共通しては言えない部分があるかもしれないが、実習の事前準備として取り組める内容としては有力な情報となると感じた。

本研究では、聞き取り調査を踏まえて展開されたレッスンを受け、実習に取り組んだ学生からの声をまとめていく。また、幼稚園の現場を経験して学生が感じた、事前準備はどんなことが必要だったのかも併せて調査し、次年度以降の課題を考察していきたい。

研究の方法

本学2年生に在籍し、筆者がレッスンを担当した学生とアドバイザーを務めるクラスの学生、計19名に紙面によるアンケート調査（表1）を行った。「幼稚園実習における音楽についてのアンケート」とし、「実習始まる前に、ピアノの課題はあったか」「幼稚園実習でピアノを使う場面はあったか」「季節の歌を歌ったり演奏したりする場面はあったか」「季節の歌以外で、歌ったり演奏した曲は」の4つの項目をピアノについて、5つ目として音楽活動の1つである「手遊び歌について」の項目、最後に自由記述で「音楽活動における事前準備はどんなことが必要だと感じたか」の6つの内容で実施した。

尚、アンケートにはプライバシー保護に注意を払い、個人と園の特定ができないよう無記名とし、調査結果は研究と授業改善の目的であることを口頭で説明した。対象学生に同意を得てアンケート調査を行った。ほとんどの学生が、実習を終えた次の週のレッスンやクラス集会時(6/21～25)に回答をしている。

1. アンケート集計結果について

1. 実習始まる前に、ピアノの課題はありましたか？

はい 12名 いいえ 7名

「はい」と回答した人は、具体的にどんな曲だったか曲名を教えてください。

曲名 人数			
・朝のうた	3名	・ドレミの歌	1名
・おはようのうた	2名	・だから雨ふり	1名
・さよならのうた	6名	・ちょうちょう	1名
・おかえりのうた	2名	・にじ	1名
・おべんとうのうた	3名	・むぎのたね	1名
・あめふりくまのこ	2名	・ばらばらおちる	1名
・子守歌	2名	・英語が大好き	1名
・きらきら星	2名	・ニャニユニョのてんきよほう	1名
・かたつむり	2名	・おいのりのうた	1名
・かえるのがっしょう	1名	・イエスさまがいちばん	1名
・よいこのあいさつ	1名	・讚美歌	1名
・時計のうた	1名	・園歌	1名

2. 幼稚園実習ではピアノを使う場面はありましたか？

はい 15名 いいえ 4名

「はい」と回答した人に質問です。具体的にどんな場面で使ったか教えてください。

・朝のお集まり	8名	・礼拝	3名
・帰りのお集まり	7名	・リトミック	3名
・朝のあいさつ	4名	・落ち着かせるとき	1名
・帰りのあいさつ	5名	・活動と活動の間の時間	1名
・おあつまり	2名	・お祈りの時間	1名
・昼食の前後	2名	・午睡の前	1名

「いいえ」と回答した人に質問です。ピアノではなく CD などの音源や歌のみで行った場合も含めて、音楽を取り扱った時間があれば具体的にどんな場面で使ったか教えてください。

・リズムダンスの時間	・リトミック
・帰りの会「おかえりのうた」「園歌」	・体操の時間
・室内で身体を使って遊ぶとき	・給食後の歯磨き

全て CD を使った活動だったと記載あり

3. 季節の歌を歌ったり演奏したりする場面はありましたか？

はい 11名 いいえ 8名

「はい」と回答した人は、具体的にどんな曲だったか曲名を教えてください。

曲名 人数			
・あめふりくまのこ	7名	・時計のうた	2名
・かたつむり	5名	・おたまじゃくしのうた	1名
・かえるのがっしょう	4名	・歯みがきのうた	1名
・にじ	3名	・しゃぼん玉	1名

4. 季節の歌以外で、歌ったり演奏した曲を教えてください。

曲名 人数			
・朝のうた	3名	・英語が大好き	1名
・おはようのうた	3名	・炎	1名
・さよならのうた	6名	・どんな色が好き	1名
・おかえりのうた	4名	・数字の歌	1名
・おべんとうのうた	3名	・さんぽ	1名
・きらきら星	1名	・にんげんっていいな	1名
・大きな古時計	1名	・おもちゃのチャチャチャ	1名
・世界中の子どもたちが	1名	・どこでしょう	1名
・菌みがきのうた	1名	・あくしゅでこんにちは	1名
・ちょうちょう	1名	・リトミック「歩く」	1名
・ドレミの歌	1名	・園歌	1名
・ドラえもん	1名	・食前のお祈り	1名

5. 手遊び歌はどんなもの(曲)を行いましたか？

曲名 人数			
・はじまるよ	6名	・わにの家族	1名
・ピカチュウ	5名	・あたまかたひざぼん	1名
・棒が一本	3名	・一匹のカエル	1名
・ゲーチョキパーで何作ろう	3名	・あめがふったら	1名
・5つのメロンパン	3名	・チョキチョキダンス	1名
・野ねずみ	3名	・ウルトラマン	1名
・やおやのお店	3名	・はなれないふたり	1名
・キャベツの中から	3名	・一本橋	1名
・一本指のはくしゅ	3名	・ぞうさんとくもの巣	1名
・ひげじいさん	2名	・おちたおちた	1名
・三ツ矢サイダー	2名	・アンパンマン	1名
・かみなりドン	2名	・くいしんぼうのおばけ	1名
・大きくなったら何になる	2名	・くいしんぼうのゴリラ	1名

6. 音楽活動における事前準備はどんなことが必要だと感じましたか？

- ・年齢を考慮して、どんな曲でどんな活動がいいのか考える必要があると感じた。
- ・ピアノで曲を弾けるようにしておく、子どもも、リズムに乗りやすいと感じたため、簡単なものでも弾けるようにしておくと思った。
- ・ピアノの練習 4名
- ・歌う際に子どもたちへのかける声(言葉)
- ・楽譜や鍵盤を見ないで伴奏を弾けるようにすること。(子どもの方を向いて弾けるようにすること) 4名
- ・歌詞を覚え子どもと一緒に歌えるようにすること。 2名
- ・実際の現場に行くと、緊張からピアノのミスが多くなるため、たくさん練習しておくことが大切だと思う。
- ・歌と伴奏ができる練習だけでなく、子どもたちの歌うことを考えて何か興味を引けることを考えたり、楽しんでいない子たちのことを考えるべきだと思った。
- ・ピアノの課題がある場合は、早めに楽譜をもらい、優先順位を聞いて練習をすること。
- ・手遊びのバリエーションを増やしておくこと。 3名
- ・子どもたちが楽しくできるような声かけを考える。
- ・リトミックのピアノや手遊び歌など、子どもたちを集めるため(注目させるため)に弾く曲を用意しておくこと。
- ・余裕をもって準備できるように練習すること。
- ・間違えても進む(弾き続ける)練習
- ・お集まりで全員が集まるまでに退屈にならないように、手遊びのレパートリーをたくさん用意しておくこと。

2. アンケート結果を振り返って 各質問の考察

1の質問、実習が始まる前に課題が渡されていたかという問いだが、始まる前というのは2種類あるということがわかった。1つは1年次の観察実習(1週間)の時に渡されたパターン、もう1つは、本実習が始まる前の打ち合わせ(オリエンテーション)で渡されたパターンである。1年次の実習の時に、本実習を見据えて前もって楽譜を渡された学生は、4月からの約2か月間のレッスンで弾けるよう準備することができた。また、オリエンテーションを余裕をもって組めた学生も、準備期間を取ることができ、何度かレッスンでも取り組むことができた

が、実習始まる前1週間で、6曲の楽譜を渡された学生もいた。そのようになってくると、レッスンで見ることができず、自分で練習するしかないなど、準備をするための十分な時間が取れず実習を迎えることになってしまう。今年度はコロナウイルス感染防止対策から、実習の始まる2週間前から大学に通学せず、オンライン授業に切り替わったこともあり、実技の面で不安が残った学生もいただろう。

また、生活の歌の扱いで、1年生の「保育表現技術 器楽Ⅰ」の授業で「朝のうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」の5曲には取り組んでいたため、2年生の実習でこの課題が出された幼稚園が多くあったが、心配なく焦らず準備することができた。他の地域でも『「朝のうた」「おべんとう」「おかえりのうた」の3曲は、事前に実習先から最も多く与えられる課題曲』⁴とされており、1年生の時から準備をしておく曲としては、納得いくものであるという裏付けができる。

2の質問の幼稚園実習ではピアノを使う場面はあったかの問いで、いいえの回答が4名もいたのには驚きの結果だった。そのうち、何人かの学生と話をする、まず歌を歌う機会が少ないとのことだった。歌っても帰りの歌で伴奏なしのアカペラで、1つの園ではピアノはあるものの鍵がかけられていて、弾くことができないようになっているとのことだった。ICTの技術を取り入れ、CDの音源を使用する他、youtubeからの楽曲をBluetoothで接続してスピーカーから流すなど、筆者が幼稚園にいたころとは全く違うシステムが導入されていることがわかった。幼稚園教諭や保育士にはピアノを弾くことが求められていると認識していたが、時代と共に変化している1つに当てはまるのだと感じた。

3の質問の季節の歌に関してだが、2019年に聞き取り調査を行った際、6月の実習で取り扱う楽曲について、傾向が分かっていたため、幼稚園から課題が出されていない学生には事前に取り組むことを勧めていた。具体的な曲目は、「かたつむり」「かえるのがっしょう」「あめふりくまのこ」「しゃぼん玉」「時計のうた」である。季節に合わせた曲や、時の記念日など行事に関連させた曲が挙げられていたので、今回も共通していることから取り組んでいたが、上記の通り、準備していた曲で対応できたことが読み取れる。また、学生からもレッスンで取り組んでいたことで、自信をもって子どもたちと一緒に歌うことができたとの感想があった。2019年の調査では、挙がらなかった「ニャニユニョのてんきよほう」や「だから雨ふり」に関しては、着目していなかったため、今後の事前準備の楽曲に追加していきたい。

4の質問では、園によってさまざまな曲への取り組みをされていることが分かった。ほとんどが本学でも授業で使用している「保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集」⁵に掲載

されている曲だが、中には、流行りの J-pop を取り扱っている園もあった。複雑なリズムが多用されている曲は、難易度が高いと感じるが、子どもたちは、TV や youtube など様々なメディアを通じて簡単に覚えてしまう。また、そういった曲は子どもたちの一番興味のある曲のため、取り組みや集中力が高まり、音楽活動がより楽しめる時間となるのだらうと推察する。ピアノで弾いて一緒に演奏するかは別として、実習生や教師も、常にアンテナを張って流行りの曲や子どもたちに人気のある曲は把握しておく必要はあると考える。

5の質問は、ピアノとは関係なく手遊びの内容だったが、この項目を立てた理由は、様々な活動の導入には手遊びが取り入れられ、音楽活動・身体表現の大きな役割を担っていると感じるからである。実習に行く前に、学生と話をしても手遊びのレパートリーの話が持ち上がり、動画を検索して子どもたちと楽しめるものを準備していくとのことだった。ピアノで伴奏を弾いて一緒に歌うものと共通して言えることは、事前に準備して練習しておくこと、子どもたちの様子を見ながらどんな声掛けが良いか、臨機応変に対応していける力が必要であることだと考える。

6の質問では、1年の観察実習から学んだことを活かし、2年の本実習を終えて学生が感じた事前準備に必要な内容を回答するものだった。それぞれに実習中の活動に違いはあったが、「ピアノの練習」「楽譜や鍵盤を見ないで伴奏を弾けるようにすること。(子どもの方を向いて弾けるようにすること)」「手遊びのバリエーションを増やしておくこと」「歌詞を覚え子どもと一緒に歌えるようにすること」の4つは、複数人から回答があった。練習はしているつもりでいたが、現場に行き、子どもたちや先生を目の前にすると緊張から思い通りにいかなかったこともあったことだろう。これは、経験していく中で身に付けていき、今後の就職活動や就職した先でも、同じことを感じていくのではないかと考える。手遊びのレパートリーについては、ある園に見学に行った際、園長先生は「毎年新しい曲が出てきて、手遊びも数えきれないほどの曲数が出てきている。新しい曲を習得していくことも大事だが、同じ曲でアレンジしていける力を身に付けていくことも大事」とおっしゃっていた。クラスをのぞいてみると、何の動物なりきるか、どんな食べ物を作ってみるか、手遊びを展開していく中で、子どもたちの意見も取り入れながら進めている場面が見受けられた。一方的に教師の方で進めていく活動ではなく、子どもたちと「対話」しながら進めていける活動へとつながっていくのだと考えさせられた。

3. 総合考察

今回、実習前の準備として、例年と大きな違いがあったのは、コロナウイルス感染予防対策の点で、「弾き歌い」の内容で授業ができなかったことである。実習では、子どもたちと一緒に歌うことも想定されるため、2年生の器楽の授業では必ず弾き歌いを課題としていたが、授業の中で「歌う」ことはできず、ピアノの伴奏だけ完成させることになっていた。実習に出れば弾き歌いをするようになるため、そのことを想定し、歌の部分にハミングを用いるなどの工夫や、前奏から歌に入るときに「どうぞ」や「さんはい」などの声掛けをする練習も取り入れていたが、実習中に実践していくことはなかなか難しかったようだ。

もっとピアノの練習が必要であることに気づいた学生、緊張から頭が真っ白になって、途中で弾けなくなってしまった学生など、実習を通して様々な経験をしてきたことが分かった。保育者は、必ずピアノを弾けなければならないと過剰に不安になることはないが、音楽活動をしていくうえで「ピアノ」は不可欠であるということが改めて実感できた。その中で、養成校の取り組みとして、どのように技術面の不安を取り除いていけるか、どんな取り組みが必要か更に考察を続けていく必要性も感じた。緊張感を軽減させるために、グループワークやアクティブラーニングを用いて、単独練習だけではなく、人前で披露する機会を設け、子どもたちの前に立ったことを想定した授業内容も検討していきたい。

ピアノの技術向上が難しく、ピアノを弾くということに不安や焦りを感じ、そのことが原因で苦しんでいる学生も多くいるため、手作り楽器を作って子どもたちと演奏してみることや、手遊びを堂々と実践できるように促していくことも大切ではないだろうか。ピアノの技術を向上させることも大切にしながら、それだけにならないように器楽と音楽の授業を結びつけて展開していくことも必要となってくるだろう。

また、現場では単に多くの曲が弾けることや間違えずに弾けることを求められてはいない。幼稚園や保育園の現場で、音楽表現活動においてどんなことが求められているのか学生と幼稚園教育要領「表現」のねらいと内容の理解を確認し、子どもたちの発達と音楽表現活動と関連させて指導していくことが、実習を迎える学生の自信に繋がっていくと考える。

4. 音楽活動における幼稚園教育要領との関わり

幼稚園教育要領では、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域によって内容が示されている。2019年の研究ノートにおいても音楽活動は「表現」に分類されることを記載しているが、音楽表現の面から分析していくと、「言葉」や「環境」についても深い結びつきがあ

ることが分かってきた。

今回のアンケート調査でも明らかとなったように、幼稚園では「季節の歌」が多くの園で取り扱われている。その中で、歌詞の意味が分からずにただピアノに合わせて歌うだけの作業となってしまうか、歌詞から想像して、情景を思い浮かべて歌えるかで、表現に大きな差が出てくるのではないかと感じた。歌詞を理解するということは、「言葉」⁶の内容(8)「いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。」や内容(9)「絵本や物語などに親しみ、興味思っけて聞き想像する楽しさを味わう。」に該当してくる。言葉の意味を理解することは難しい場合でも、子どものイメージの豊かさが、想像したり、表現したりすることの楽しさに繋がっていくと考える。

また、歌詞から情景を思い浮かべること、例えばカエルが跳ねる様子、雨の音などについては、「環境」⁷の内容(1)「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」や内容(3)「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。」に該当してくる。幼稚園生活の中で、子どもが季節の変化に気付く、子どもなりに関心を持つことが大切だろう。子どもたちが全身で四季折々の変化に触れることができるような環境づくりをすることで、「表現」に繋がっていくことと推察する。

以上のことから、音楽活動をするから楽器や歌の技術を鍛えればよいとは言えないことがわかってくる。全ての領域との結びつきを大切に、養成校の中でも、他領域を専門とする教員と連携しながら展開していける授業を考えていくことで、子どもたちや幼稚園、保育園にとって大きな力となるだろう。

5. まとめ・今後の課題

本学の「保育表現技術 器楽Ⅱ」の単位取得条件には15曲の弾き歌いが課題として挙げられている(上記の通り、今年度は「歌う」ことはしない)。1年次の「器楽Ⅰ」から繋がっている授業だが、ピアノ初心者やピアノ経験が少ない学生が多く、2年次の授業でもピアノ技術の指導中心になってしまう現実はある。

また、実習に出てしまえば、ピアノの経験が多くても少なくとも、同じ内容を要求されることが多く、苦勞する学生が多くいる。課題をこなしていくことは最低限必要なことではあるが、同じ楽譜で取り組むことが難しい場合は、伴奏の部分をコードやベース音のみに変えてみるなど工夫することは必要だろう。そのような技術面のサポートと同時に、幼稚園や保育園の現場で音楽活動を行う場合には、「4. 音楽活動における幼稚園教育要領との関わり」に取り上げた他領域との関連から、ピアノ技術以外に表現するという観点では、どのような援助が必要となるか考えていくことも今後の課題となる。また、そのような能力が得られる学びを提供していきたい。

表 1

幼稚園実習における音楽についてのアンケート

1.実習始まる前に、ピアノの課題がありましたか？ はい ・ いいえ

「はい」と回答した人は、具体的にどんな曲だったか曲名を教えてください。

--	--

2.幼稚園実習ではピアノを使う場面はありましたか？ はい ・ いいえ

「はい」と回答した人に質問です。具体的にどんな場面で使ったか教えてください。

例：朝のあいさつ、責任実習…など

--	--

「いいえ」と回答した人に質問です。ピアノではなく CD などの音源や歌のみで行った場合も含めて、音楽を取り扱った時間があれば具体的にどんな場面で使ったか教えてください。

--	--

3.季節の歌を歌ったり演奏したりする場面はありましたか？ はい ・ いいえ

「はい」と回答した人は、具体的にどんな曲だったか曲名を教えてください。

--	--

4.季節の歌以外で、歌ったり演奏した曲を教えてください。(朝の歌、さよならの歌も含む)

--	--

5.手遊び歌はどんなものを使用しましたか？他の先生が子どもたちと一緒に取り組んでいたものが別な場合は、その歌も教えてください。

自分

先生方

--	--

6.音楽活動における事前準備はどんなことが必要だと感じましたか？

--	--

ご協力ありがとうございました。

引用文献

- 1 山下浩：幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノテキスト－レッスン 24 とその応用－ ドレミ楽譜出版社 2017
- 2 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成 29 年告示) 東山書房 2018 年 27 頁
- 3 中村礼香：保育者養成校における学生のピアノに関する意識調査 鹿児島女子短期大学紀要 第 52 号 p.103～108 2017
- 4 原友美・西出悦子：保育者養成校における歌唱教材の内容とその指導方法－幼稚園教育実習からみた音楽系授業の必要性－ 愛知みずほ短期大学
- 5 津布楽杏里・桑原章寧：保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集 初級の学生の方、現場教育者の方は必須!! 株式会社ドレミ楽譜出版社 2018 年
- 6 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成 29 年告示) 東山書房 2018 年
- 7 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成 29 年告示) 東山書房 2018 年 24 頁

参考文献

- 1 深谷悠里絵：「保育表現技術 器楽Ⅱ」実習での音楽活動から考えるピアノ演奏技術のあり方 郡山女子大学紀要 第 56 集 p.131～136 2020
- 2 吉村淳子：保育者養成におけるピアノ教育についての試み－学生へのアンケート調査から－新見公立大学紀要 第 33 巻 p.87～92 2012
- 3 吉村淳子：保育者養成におけるピアノ教育に関する一考察 新見公立大学紀要 第 34 巻 p.51～54 2013
- 4 秋田郁：保育者養成校における音楽表現指導について－幼稚園教育実習後のアンケートから－名古屋経済大学 2018
- 5 中村礼香：保育者養成校における学生のピアノに関する意識調査 鹿児島女子短期大学紀要 第 52 号 p.103～108 2017
- 6 大橋美佐子：実践と知識を結びつける試み保育方法演習 A の授業計画 2017
- 7 鎌田千佳：幼児教育の現場で求められるピアノの役割について 幼稚園実習後の学生アンケート調査の分析報告 研究紀要 第 40 号 2018
- 8 原友美・西出悦子：保育者養成校における歌唱教材の内容とその指導方法－幼稚園教育実習からみた音楽系授業の必要性－ 瀬木学園紀要 第 14 号 2019
- 9 諸井サチヨ：園生活での音楽表現活動の重要性とその活動を支える保育者に求められる技術に関する一考察 淑徳大学短期大学部研究紀要 第 60 号 2019
- 10 山本美紀：初等教育教員養成課程における器楽技能をめぐる一考察－学生のピアノ実技に関する「困りごと」意識と実態－ 奈良学園大学紀要 第 12 巻 2020
- 11 多田純一：幼稚園教諭に求められるピアノ弾き歌いの技術とその指導法に関する一考察－幼稚園実習第 2 段階における課題を分析して－ 奈良佐保短期大学研究紀要 第 27 号 2019
- 12 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成 29 年告示) 東山書房 2018
- 13 杉田啓三：保育内容「表現」平田智久 小林紀子 砂上史子 ミネルヴァ書房 2019
- 14 文部科学省：幼稚園教育要領解説 フレーベル館 飯田聡彦 令和 2 年

- 15 浅倉恵子：手遊びから音楽身体表現遊びへ 指導案で示した保育の展開例 風詠社 2020
- 16 今泉明美・有村さやか：幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ 萌文書林 2020
- 17 岡本有子・押川涼子・梶木良子・川崎智子：音楽科教育に求められるピアノ技術－教職課程における「ピアノ実習」の授業実践から考察する教育法－ 洗足学園音楽大学教職課程年報 p.45～56 2018
- 18 中川華那・片山美香：音楽による幼児の表現活動の意義と保育者の援助に関する研究－人とかわる力を育むために－ 岡山大学教師教育開発センター紀要 第5号 p.73～82 2015
- 19 文部科学省：幼児理解に基づいた評価 平成31年3月 チャイルド本社 2019
- 20 岡健・金澤妙子：演習 保育内容「表現」－基礎的事項の理解と指導法－ 建帛社 2019